



NEWS LETTER

ウォーター・セキュリティ研究会

発行：研究会事務局

第5号

2010年2月1日

1. 「気候変動による水資源分野の適応策と国際連携」シンポジウム開催報告

2010年1月28日(木)に国際シンポジウム「気候変動による水資源分野の適応策と国際連携」(ウォーター・セキュリティ研究会共催)が開催されました。プログラムに沿って、概要をお知らせ致します。

日時：2010年1月28日(木) 9:20 ~ 12:00

場所：立命館大学朱雀キャンパス 1階 多目的室

プログラム

1. 趣旨説明

仲上健一(立命館大学政策科学部教授)「気候変動による水資源環境への適応策」

気候変動による水資源環境への影響について、IPCCの第4次評価報告書を中心に整理し、緩和策だけでなく適応策も併せて検討することが求められています。そこで、国土交通省の報告書を元に、適応策のあり方について、検討した結果を報告して頂きました。



パネルディスカッションの様相

2. 個別報告

何青(中国上海華東師範大学河口海岸国家重点実験室副主任教授)

「長江2006：水の排出量の低下と河口への塩水浸入」というテーマで、2006年の長江における干ばつと塩水浸入に関する事実認識をご報告頂きました。また、自然および人為の両方の側面からの原因について分析した結果を報告して頂きました。

陳英旭(中国浙江大学・水環境研究院教授)

「太湖流域・甌溪での農業における非点源汚染管理のための新技術」というテーマで、

農業非点源汚染に関する中国および瀋陽の概況をご説明頂きました。そして、先生ご自身が推進されている農業非点源汚染の管理プロジェクト、および生物炭化物を用いた温室効果ガス削減管理の研究についてご紹介頂きました。

福士謙介（東京大学サステナビリティ学連携研究機構准教授）

「気候変動影響を考慮した発展途上国における水資源・水環境と人々の関わり」というテーマで、水環境と水系感染症の関係についてご報告頂きました。その中で、気候変動や経済成長による状況の変化やその適応策について分析された結果をご説明頂き、また、マニラ市を例に、洪水問題とリスクアセスメントの手法をご紹介頂きました。

中島淳（立命館大学理工学部教授）

「琵琶湖の環境保全」というテーマで、琵琶湖の水質保全対策の歴史をご説明頂きました。また、琵琶湖の総合的水環境保全に関して、その評価指標を検討するために行った琵琶湖内湖の調査をご紹介頂きました。

3. パネルディスカッション

テーマ「気候変動による水資源環境分野の適応策と日中間連携の可能性」

パネリスト

何青（中国上海華東師範大学河口海岸国家重点実験室副主任教授）

陳英旭（中国浙江大学教授）

原圭史郎（大阪大学サステナビリティ・サイエンス研究機構特認講師）

福士謙介（東京大学サステナビリティ学連携研究機構准教授）

中島淳（立命館大学理工学部教授）

コーディネーター：仲上健一（立命館大学政策科学部教授）

2. バングラデシュ訪問のお知らせ

当研究会では、バングラデシュ・ダッカ市における気候変動影響への適応策に関する研究推進のため、現地の専門家の方々に研究委託という形でご協力を頂いております。そして、相互に研究成果を報告するとともに、さらに議論を深めることを目的として、本年度はダッカ市においてワークショップを開催する計画を立てております。現時点でのプログラムは以下の予定です。ご希望の方は、お早めに事務局までお知らせ下さい。

日程：2010年2月20日（土）～23日（火）

プログラム

1日目〔2月20日〕

バングラデシュ・ダッカ市到着後、意見交換会

2日目〔2月21日〕

ダッカ市内視察 洪水への対策として、河川の浚渫現場やポンプ施設を視察予定

3日目〔2月22日〕

Bangladesh Water Security Workshop 2010 in Dhaka

報告予定者

日本側：仲上健一（立命館大学政策科学部・教授）

高尾克樹（立命館大学政策科学部・教授）

濱崎宏則（立命館大学政策科学研究科・博士後期課程）

バングラデシュ側

G. A. Choudhury（環境地理情報センター（CEGIS）事務局長）

Reba Paul（バングラデシュ・ウォーター・パートナーシップ事務局長）

M. M. Rahman（バングラデシュ工科大学・教授）

I. Ishrat（バングラデシュ工科大学・准教授）

A. Hassan（環境地理情報センター・部長）

F. Ahmed（環境地理情報センター・プランナー）